大学礼拝

Chapel News No.136

第136号　東北学院大学　2016年10月1日

巻頭言

宗教部長
野村　信

「実りある人生を送るために」

「だから、どう聞くべきかに注意しなさい。持っている人は更に与えられ、持っていない人は持っていると思うものまでも取り上げられる。」（ルカによる福音書八章一八節）

西洋のキリスト教世界の土台を築いた一人、アウグスティヌス（三五四～四三〇）は、自著で次のような主旨のことを語っています。「言葉によっては、何も新しいことを学んでいない。言葉による学習は事実そのものに触れて初めて成立する。」（De magistro）これは、私たちが今、耳を澄まして聴くべき最も大切な教えです。なぜなら、私たちは言葉の洪水のような世界に生きているからです。小学校、中学校、高等学校、しかも大学でも、教師から教えられたことをその場で聞くだけで、「分かった」と思い、一つ一つを吟味しないで次の課題に向かうからです。このような学びを続けていると、学ぶことの面白さが感じられなくなります。しかも言葉そのものに対する興味も湧かなくなり、いずれ人生そのものが色あせる日がやって来ます。

ところで、主イエス・キリストが最も熱心になされた働きは、神の言葉を語ることでした。その言葉のどの一つも、しっかりと吟味し、味わうべき教えでした。すなわち聞く私たちが一つ一つの言葉を自分の経験と世界の歴史や事象に照らし、納得いくまで熟考するように求めておられます。ですから、**「どう聞くべきかに注意しなさい」**と言われます。

内実が問われています。言葉であるなら、それが指し示す事実や実体、内容を確認し、実感し、了解していく作業が求められています。それはまどろっこしく時間のかかる取り組みですが、これを飛ばすと、中身のない、あたかも砂で城を作っているような作業を続けることになります。

そこで、キリストは続いて言われます。**「持っている人は更に与えられる」**と。つまり、時間がかかっても言葉で学んだことを吟味し、自分の中に蓄える人は、次の学びからも実りが得られますが、**「持っていない人」**、すなわち、言葉の内実を確認せずに、ただ聞くだけで、積み上げている人は、あたかも大きな砂の城を作っている人のようで、崩壊した時の喪失感は大きいのです。だから**「持っていると思うものまでも取り上げられる」**ことになります。

季節は実りの秋です。皆さんの大学での学びに確かな手ごたえのある実りを得てほしいと思います。そのためには、手間ひま惜しまず、学んだことの内実を確かめ、吟味し、消化していくことが欠かせません。大学での学び、そして聖書からの学びが、この時豊かな実りを結ぶことを願っています。

学生の皆さん、宗教部の先生たちをご紹介します

本学の毎日行われている大学礼拝や必修のキリスト教学を担当されている先生たちです。この春から三人の先生が加わりました。みなそれぞれの専門分野をお持ちで、総合人文学科の教員として学科の教育も担当されています。さて、多彩な先生たちの顔ぶれをご紹介しましょう。

●**野村信先生**（宗教部長：前列中央）

宗教部の教員の中では、本学の勤続が二〇年を超える「最古参」になりました。去年から宗教部長として、宗教部の活動を率いています。日本基督教団の牧師でもあります。十六世紀のジュネーブで宗教改革を行ったフランス人J．カルヴァンの研究がおもな専門です。

●**北博先生**（大学宗教主任：後列最右）

東北学院での勤続一〇年目。旧約聖書の研究がおもな専門です。ヘアースタイルが特徴的です。フィリピンにも家があり、毎年そこにフィリピン出身のお連れ合いと行くのが楽しみです。

●**出村みや子先生**（総合人文学科長：前列右2）

学科長として、宗教部の活動に携わります。古代のギリシア教父オリゲネスという人物の研究がおもな専門で、彼が活躍したエジプトの古代都市アレクサンドリアについても研究しています。

●**今井奈緒子先生**（大学オルガニスト、教養学部教授：前列最右）

本学では宗教音楽研究所の所長として、宗教部の活動に携わります。J．S．バッハをはじめ、どんな楽曲も見事にこなしてしまう、日本で屈指のオルガニストの一人です。また日本オルガニスト協会の会長も務めるなど、幅広く活躍しています。

●**原田浩司先生**（大学宗教主任：前列左2）

文学部総合人文学科の誕生（二〇一一年）と共に、震災の年に東北学院に着任しました。学院大のOB（教養学部卒）でもあり、日本基督教団の牧師でもあり、スコットランド宗教改革や長老教会の研究に携わり、最近のはまりは「バイブル・ハンター」というカードゲームです。

●**吉田新先生**（大学宗教主任：後列左2）

昨年度、本学に着任された新約聖書と日本の聖書翻訳についての専門家です。上手な語りで、大学礼拝の説教とキリスト教の講義を担当され、昨年度は大学全体の授業評価アンケートで最高の評価を得て、学長から表彰されました。

続いて、今春、本学に着任した先生たちです。

●**鐸木道剛先生**（大学宗教主任：前列最左）

新任ですが、地方の国立大学の教員を長年勤めあげた大ベテラン。正教会のイコン（聖画）をはじめ、東欧の宗教美術・芸術の専門家です。セルビアからは名誉ある勲章を頂いたこともあるという筋金入りの先生です。

●**阿久戸義愛先生**（大学宗教主任：後列最左）

「義愛」と書いて「よしや」と読みます。旧約聖書に登場するモーセの後継者の名前「ヨシュア」に由来するそうです。二〇世紀の神学者カール・バルト研究がおもな専門です。とても柔らかな語り口調が好印象です。

●**藤原佐和子先生**（大学宗教主任：後列右2）

宗教部の最年少。これまで京都にいたせいか、関西風の喋り口なのに、実は関東人。東北に来たので、目下、秋田弁や仙台弁を勉強中。おもにタイにおける女性とキリスト教の問題について専門的に研究しています。

（執筆　原田浩司）

Campus messages

各キャンパス担当の先生たちからのご挨拶

泉キャンパス

大学宗教主任　藤 原　佐和子

今年度から「キリスト教学」を担当しています。心配なことは色々とあるのですが、私が気がかりに感じているのは、大教室での講義をうまく運営していけるかという教員としてのスキルに留まりません。私はむしろ、自分という人間が、多くの学生さんたちにとって初めて出会うクリスチャンの一人になってしまうことに、はかりしれない畏れを抱いています。

曾祖母の代から信仰を受け継ぐ４代目ですので、私が世の中的に見て「クリスチャンだ」というのは間違いないでしょう。それでも尚、皆さんにとっての「キリスト教との出会いの入り口」に立つ資格なんてものがあるのかどうかは、依然として謎なのです。

しかし一方では、これまであまりよく知らないできたクリスチャン的なものの考え方や、働き方を、皆さんに少しでも身近に感じてもらえるようになるとしたら、どんなにか素晴らしいことだろうという思いや憧れも、密かに併せ持つものであります。

土樋キャンパス

大学宗教主任　鐸木 道剛

土樋キャンパスの礼拝堂は、一九三二年に献堂されたラーハウザー記念東北学院礼拝堂である。その一番奥の全面の窓にイギリス製のステンドグラスがはめ込まれている。キリストの昇天を描いているが、中央に町が描かれていることに気付かれたであろうか？これはエルサレムである。このステンドグラスには「仙台をエルサレムに！」つまり、「仙台を地上の天国に！」との意味が込められているのである。エルサレムをそういう意味で使うことは、なかなか理解されないであろう。そもそもこのラーハウザー礼拝堂のネオ・ゴシック建築は、アニミスティクな心性が濃厚な東北の、そして日本の風土のなかで、いかにも異物である。しかし啓示はだれにとっても異物なのであり、それによって我々は解放され自由となる。それが近代である。あらためて近代の意味を考えるに、礼拝堂での毎日15分の礼拝は大事なきっかけである。理系の学問の基礎もそこにある。学生のみならず、多くの教職員も礼拝に参加することで、我々の、そして日本の近代が強化されるのであり、そういう礼拝の意義が伝わることを念願している。

多賀城キャンパス

大学宗教主任　阿久戸 義愛

新年度も半年が経ちました。色々慣れてきましたでしょうか。環境に慣れてくると、私たちは安心していろいろな事ができるようになるものです。私は秋生まれなので、秋が大好きです。食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋、行楽の秋など、「〇〇の秋」という言葉がたくさんあるように、秋は色々なことを味わったり、新たにトライしてみたりするのにちょうどいい季節です。大学生の皆さんは、何かをやったら、やった分だけ成長できる、人生の素晴らしい時期を過ごしています。間違いなく、今皆さんが体験し、学び、味わうことのすべては、皆さんの人生を生涯にわたって豊かにします。Try Everything. 様々なものに触れてみてください。そして時には、実はとても身近にある、とても静かで、深くて、豊かな祈りの場所である多賀城キャンパス礼拝堂に来てみてください。心静かに礼拝の空気に包まれるとき、他では味わえない豊かな体験ができると思います。礼拝堂で皆さんをお待ちしています。

聖書の学び会（聖書研究会）の様子

誰でも参加できますよ！

阿久戸義愛先生のグループ

毎週水曜日に泉キャンパスで聖書研究会を行っています。お昼休みにお弁当やお菓子を持ち寄って一緒に食べながら、5人ほどのレギュラーメンバーで聖書を読んだり、キリスト教的な内容を含んだ歌や映像を鑑賞して感想を言い合ったりしながら、楽しい時を過ごしています。子どもの頃から教会に通っていて、もうずっと聖書に親しんできたような人であっても、聖書を改めて開いてみるたびに、「これは一体どういう意味だろう？」と分からないことが出てきたり、「あれ？こんなこと書いてあったんだ」と気づかされたりします。本当に、どんなに勉強しても、キリスト教や聖書について学ぶことはまだまだたくさんあります。

原田浩司先生のグループ

毎週月曜日のお昼休み(12:30-12:50)に、泉キャンパス・キリスト教資料室(礼拝堂１階)で学んでいます。「キリスト教の基本を学ぶ」というテーマで、一問一答形式の入門書を1項目ごとに読み進めています。今年は５～７人ほどの学生たちが集って楽しい学びをしています。お昼休みの時間帯ですから、お茶を飲み、お弁当を食べながらも全然OKです。

野村先生、鐸木先生のグループ

私たちの会は、「ギリシャ語聖書読書会」という名前で毎月一回、皆の都合の良い日に、時間をたっぷりとって聖書を少しずつ、原語のギリシャ語で読んでいます。後期からは、ラテン語も併用して、日本語の聖書では気づかない様々なニュアンスやメッセージを発見して、楽しんでいます。学生の皆さんは誰も学習したことのない言語ですが、言葉はどんな言語でもそれぞれ共通していて、また微妙な含みももっています。じっくり読むとその面白さが分かってきます。これから、新しい出席者もさらに二人増える予定です。誰でも参加できますから、関心のある人は見学にきてください。

第42回

サマーカレッジ報告

大学宗教主任
吉田　新

二〇一六年八月八日(月)から一〇日(水)にかけて、第42回東北学院大学サマー・カレッジが宮城蔵王ロイヤルホテルにて行われた。今年は東北学院創立一三〇周年という記念すべき年であり、テーマは「三校祖のこころざし ～東北学院創立一三〇周年に思いを馳せて」であった。八日の午前中、土樋キャンパス押川記念ホールで開催された、東北学院史資料センター長である河西晃祐教授による公開講座「戦争と東北学院―キリスト教主義学校の苦悩」を聞くことから今年のサマー・カレッジは始まった。河西先生の講演では、なぜ、戦時下でキリスト教主義学校であった東北学院が軍部に協力したのか、その歴史的背景を説明して頂いた。写真や映像を交えたお話しはとても分かりやすく、学ぶべきことが多い内容であった。講演では、現在も使われている大学本館の裏側にあったグランドで、航空機と共に写る在校生たちの写真が紹介された。戦前の学院の歴史を知ることは、未来の学院を考えることでもあることを、このような写真を通して学ぶことができた。

会場を蔵王ロイヤルホテルに移し、開会礼拝の後、午前中の公開講座の内容を踏まえ、「東北学院とわたし」と題したディスカッションを行った。翌日の午前中は東北学院史資料センターの日野哲さんによる講演「三校祖のこころざしを考える―映画『東北学院の一〇〇年』を観ながら―」を聞いた。その際、東北学院一〇〇周年の際に制作された映画「東北学院の一〇〇年」も鑑賞した。東北学院の三校祖である押川、ホーイ、シュネーダーにまつわる様々なエピソードを説明して頂いた。とりわけ、学院の創設に携わったホーイのエピソードは印象的であった。アメリカの伝道局から学院の建設資金として送られた献金が、盗難により失われてしまった際、私財を投げうって学院のために尽くされたホーイの姿に心打たれた。現在では日本を代表する私立大学のひとつとなっている東北学院も、その草創期には様々な苦労があったことを知り、学院をより深く理解することができたのは感謝である。

二日目の午後の陶芸体験では思い思いの器や皿を作り、よい思い出となった。三日目は今年のテーマに関するグループ討議を行い、閉会礼拝の後、帰途についた。今年の参加者は例年より少し少なかったが、グループ討議では活発な意見が交わされ、とても充実した内容であった。

「あなたは自分を愛していますか」

聖書 マタイによる福音書22章34～40節

日本基督教団
金沢教会牧師
井ノ川（いのかわ） 勝（まさる）

私どもの人格形成、人生形成において、気がついた時には自分ではどうにもならない様々なものによって、私という人間が形造られています。親から譲り受けた遺伝、育った環境。しかし、それらを徹底的に否定し、抑圧すると、返って病んでしまうことがあります。大切なことは、自分の育ち、自分と和解すること。これは誰にでもある宗教問題です。「あなたは自分を肯定できますか」。

私どもは大学生になるまで、いろいろと比較されて生きて来ました。学校では成績で比較され、家では兄弟同志比較されます。比較されると、自分の欠点ばかりが目につくようになります。友人にはたくさん良いものがあるのに、自分には少しも良いものがない。コンプレックスを持つようになります。自分を肯定すること、愛することが出来なくなります。

主イエスが私どもに語られた御言葉に、扇の要とも言える御言葉があります。私どもが生きる時に大切な戒めが二つあります。「神を愛すること」。「自分を愛するように、隣り人を愛すること」。ここで注目してほしいのです。「隣り人を愛する」前に、「自分を愛する」とあります。主イエスは私どもに、自分を愛して生きることを求めておられます。

「自分のために生きること」と「自己中心的に生きること」は異なります。自分のために生きること。それは言い換えれば、私が私を喜んで生きることです。私が私を本当に喜んで生きることなくして、隣り人を愛することは出来ません。

神学者ティリッヒは戦後の一九五〇年、イェール大学で「生きる勇気」という講義をしました。戦後五年が経っても、世界は平和の明るい空気ではなく、暗くどんよりした空気が覆い、若者たちは生きる勇気を失っていました。その講義において、ティリッヒはこのように語りました。「私どもが受け容れられない者であるにもかかわらず、キリストによって受け容れられている、その私ども自身を私どもが受け容れること。それこそが生きる勇気である」。キリストによって何の条件も付けられず受容された私を、私も受け容れる。そこでこそ、私が私を生きる。神のために私を生き、隣り人のために私を生きることが出来るのです。

敗戦後七〇年の昨年、私は長崎を訪ねました。原爆資料館、大浦天主堂と共に、「如己堂」を訪ねました。原子爆弾により自ら被爆し、妻を失い、二人の幼い子どもを抱えながら、被爆した人々の救援活動に自らを捧げた医師・永井隆が建てた小さな庵です。誰よりも隣人愛に生きた永井隆が何故、「己を愛する如く」という名前を付けたのでしょう。被爆された方の中には、変わり果てた自分を受け容れられない者も多くいたことでしょう。隆が娘の茅乃に動物の絵を書きました。しかし、娘は何の動物か分からない。隆が小さなしっぽを書き足すと、ようやくブタと分かりました。隆はその絵に、「しっぽもひと役」と書きました。無駄に見えるしっぽがなければブタはブタではありません。「しっぽ」にだって何かの役目があります。病人で寝たきりになっても、手があれば書くことができる。耳があれば話を聞くことができる。何もできなくなっても祈ることができる。命の最後の瞬間まで、神は一人一人を生かし、果たすべき使命を授けてくださいます。

神は愛する御子イエス・キリストを十字架につけてまで、私どもを愛されました。私どもの命は御子イエス・キリストの命と釣り合う重さがあります。神に愛されたあなたを愛し、あなた自身を主と隣人のために捧げて生きてください。

◆井ノ川 勝氏

一九八〇(昭和55)年三月
青山学院大学卒業
一九八四(昭和59)年三月
東京神学大学大学院修士課程修了
一九八四(昭和59)年四月
日本基督教団山田教会牧師、常盤幼稚園園長
二〇一四(平成26)年四月
日本基督教団金沢教会牧師

この間、日本基督教団中部教区副議長、議長を歴任。また、二〇一五年より日本基督教団改革長老教会協議会議長に就任し、現在に至る。

主な著書
●『信仰生活の手引き 教会』(日本キリスト教団出版局)
●『日本の教会と「魂への配慮」』、『イエスと共に歩む生活―はじめの一歩Q&A30』(共著、日本キリスト教団出版局)
●『これからの日本の説教―説教者加藤常昭をめぐって』(説教塾ブックレット9、共著、キリスト新聞社)

「砂漠がオアシスに変わるとき」

旧約聖書　イザヤ書　第35章5～10節
新約聖書　ルカによる福音書　第10章21～24節

日本基督教団
美竹教会牧師
左近（さこん）　豊（とむ）

預言者のまわりには、辛すぎる「あの日、あの時」を生き延びてきた人たちがいた。王は惨劇を目の当たりにした目を潰されて牢に繋がれ（エレミヤ52章）、民は飢餓の中、生きるために人間性を犠牲にし内なる獣性を見てしまった悔いと罪を引きずって生きていた（哀歌）。自らの内には希望も救いも芽生えないことに打ちのめされたまま。イザヤもその中の一人だった。外から、救いの言葉は臨む。神の言葉は未来から来る。「あの日、あの時」から「その日、その時」へ、神のみ言葉が先だって進みゆく、と。壮大な幻、神が始められる新しい御業のヴィジョン。あたり一面、渇きと飢えが命を干上がらせているような現実があるが、その砂漠がオアシスに変わる時が来る、と。

旧約聖書の知恵の教師も教えた。「幻なき民は滅びる」、と（箴言29:18）。ヴィジョンを持たない国民は堕落する、と。想像力が枯渇した時、私たちの世界は干上がる。神の言葉が作り出す世界を仰ぎ見る幻のゆえに、今、目の前で行き詰ってしまっている世界が、それで全てではないことに気づかされる。神が来たらせられる「その日、その時」の幻を胸に、「この日、この時」を精いっぱい真剣に生きる者とされて行く。

時代から、時に距離を置き、対峙し、批判する預言者の視点は、ここから来る。聖書が語る預言者の生き方は、浮世に身を沈めて、そこで泣き、笑い、しながら、しかし、そこに溺れない生き方。醒めて夢を見、冷静な目で幻を語る。浮世に溺れない、しかし浮世離れしない生き方。

イザヤは更に「主に贖われた人々は帰ってくる」と語る。主が犠牲を払って命買い取ってくださった者。イザヤはこの原点に私たちを立ち帰らせる。

クリスチャンは、精神世界の高みに登る者のことではない。むしろ高きにいます方が、低く下ってくださって、私たちの地平に身を沈められ、涙を流し、共に笑ってくださり、血を流し、共に死んでくださった。そうやって私たちの弱く、よろめき、おののく生命の確かな礎となってくださった、この原点に常に立ち帰る者のこと。

東北学院大学で毎日行われている礼拝で、神の国、神の御業の幻を見る幸いが与えられている。そのただ中に復活の主がおられるのを見る。そこに私たちの命の基があること、原点があることを思い起こす。日々の生活で纏わりついた様々な重荷をここで降ろし、曇って霞んでしまった目を、ここで洗っていただいて、もう一度、神の御業の幻を見ることができるようにされる。

主は喜びにあふれて言われる。「あなた方の見ているものを見る目は幸いだ！言っておくが多くの預言者や王たちは、あなた方が見ているものを見たかったが見ることができず、あなた方が聞いているものを聞きたかったが、聞けなかったのである」

◆左近　豊氏

一九九五（平成7）年三月
東京神学大学大学院修了（神学修士）
二〇〇〇（平成12）年五月　米国コロンビア神学大学院Th.M課程修了
二〇一〇（平成22）年五月　米国プリンストン神学大学院Ph.D課程修了
一九九五（平成7）年四月　日本基督教団横浜指路教会担任教師就任（～1998.3）
二〇〇六（平成18）年四月　青山学院大学兼任講師（～2008.3）
九月　国際基督教大学非常勤講師（～2008.3）
二〇〇八（平成20）年四月　聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科チャプレン、助教就任
二〇一〇（平成22）年四月　聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科准教授就任（～2014.3）
二〇一一（平成23）年四月　聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科兼任准教授就任（～2014.3）
二〇一四（平成26）年四月　日本基督教団美竹教会主任担任教師就任（現在に至る）（東京神学大学・大学院、聖学院大学大学院、青山学院大学非常勤講師兼務）

主な著書

●（単）Fire Sent from Above: Reading Lamentations in the Shadow of Hiroshima/Nagasaki (ProQuest, 2011)
●（共）Imagination, Ideology, and Inspiration: Echoes of Brueggemann in a New Generation (Sheffield Phoenix, 2015)
●（共）『3.11以降の世界と聖書』（日本基督教団出版局、2016年）
●（訳）J.L.メイズ著『現代聖書注解　詩編』（日本基督教団出版局、2000年）
●（訳）W.ブルッゲマン著『聖書は語りかける』（日本基督教団出版局、2011年）
●（訳）F.W.ダブス・オルソップ著『現代聖書注解　哀歌』（日本基督教団出版局、2013年）
●（監訳）W.ブルッゲマン著『旧約聖書神学用語辞典―響きあう信仰―』（日本基督教団出版局、2015年）

秋の行事と予告

実りの秋を迎え、続いてクリスマスを祝う季節が近づいてきました。今後の幾つかの行事についてお知らせします。

1 秋季特別伝道礼拝のお知らせ

年に2回、特別伝道礼拝を行いますが、春は教会に仕える牧師の先生方をお招きして聖書のお話を聞き、秋は社会で活躍している方々からお話をお伺いします。今秋の予定です。

◆泉キャンパス礼拝堂
日時　2016年10月12日(水)
10時10分～11時00分
講師　森下　辰衛 氏
(三浦綾子読書会　代表)

◆多賀城キャンパス礼拝堂
日時　2016年10月12日(水)
10時10分～11時00分
講師　長谷川　与志充 氏
(三浦綾子読書会　顧問)

◆土樋キャンパス礼拝堂(昼)
日時　2016年10月13日(木)
10時10分～11時00分
講師　森下　辰衛 氏
(三浦綾子読書会　代表)

◆土樋キャンパス礼拝堂(夜)
日時　2016年10月12日(水)
19時35分～20時25分
講師　長谷川　与志充 氏
(三浦綾子読書会　顧問)

2 宗教改革記念日（10月31日）

ドイツのヴィッテンベルク大学の聖書学の教授であったマルティン・ルターは、1517年10月31日に、免罪符の販売などに関する公開質問状(「九十五箇条の論題」)を聖堂の門に張り出しました。これがきっかけとなって宗教改革が各地に広がり、プロテスタントと呼ばれるキリスト教の新しい教会の群れが誕生しました。私たちの東北学院はこのプロテスタント(福音主義、新教とも呼ばれる)教会の集まりに属しています。当日は大学礼拝やキリスト教学で、この記念日の意義について触れることと思います。

3 収穫感謝日（11月第四木曜日）

この季節に世界の各地で秋の収穫のお祭りが行われますが、キリスト教では、特に米国とカナダで盛大に祝われます。その起源は、1620年にさかのぼりますが、メイフラワー号に乗って新天地を求めてたびだった清教徒たちはアメリカ東海岸に上陸しました。しかし移住者の半数が失われるほど過酷な時を過ごし、翌年の秋に収穫が与えられて生き延びることができました。これを記念してお祭りを行います。秋の実りを感謝すると同時に、神に養われていること覚え、感謝する日です。

4 待降節（アドベント）

イエス・キリストの誕生を祝うクリスマス(12月25日)の前の四週間を「待降節」と呼び、その最初の日曜日を待降節第一主日と定め、教会の暦は始まります。キリストの誕生を暗い世界に光が誕生したと聖書では理解するので(イザヤ9・1、ヨハネ1・5)、夜の長いこの時期に光なるキリストが到来したことを祝うのは、時季にかなって嬉しいものです。家屋や街路にイルミネーションを飾るという習慣は日本全国に定着しました。大学の諸行事は左記を参照してください。

宗教部よりお知らせ

クリスマス礼拝のご案内

★第27回泉キャンパスクリスマス
12月2日（金）18時30分～
泉キャンパス礼拝堂

第一部
礼　拝
説教者：日本基督教団仙台松陵教会
戸井田　栄牧師

第二部
クリスマスコンサート
クリスマス・メドレー演奏、学生有志合唱団、みんなで歌おう、キャンドルサービス　他

★大学クリスマス
泉キャンパス：
12月15日（木）10時25分～

土樋キャンパス：
12月15日（木）16時30分～

多賀城キャンパス：
12月16日（金）10時25分～

説教者：東京神学大学講師
須　田　　拓　氏
オラトリオ「メサイア」合唱

編集後記

今年の夏は、台風や大雨による水害が各地で起きました。復旧が速やかになされ、平穏な日常生活が回復されますように祈っています。秋の号をお届けします。少しずつ工夫して充実した内容を提供できるように努めています。原稿を執筆して下さった方々に感謝します。ところで、学生の皆さんの「秋の実り」はいかがですか。充実した学びと学生生活が続きますように。

二〇一六年九月三〇日
東北学院大学宗教部
編集者　野村　　信

〒九八〇－八五一一
仙台市青葉区土樋一丁目三番一号